

安心と信頼の社会保障制度を確立しよう！

報告一九・四 「戦争をさせない・九条壊すな」総がかり行動

九月四日(木)夕方六時「戦争をさせない・九条壊すな」総がかり行動(主催・戦争をさせない1000人委員会・解釈で憲法九条を壊すな！実行委員会)が日比谷野外音楽堂で行われました。定刻三十分前に会場に入り何とか席を確保。夕闇が迫る会場には、安倍政権の集団的自衛権行使容認の閣議決定に対する怒りと、このまま日本を戦前に回帰させてはならないという参加者の危機感と熱気があふれ、開会間近には通路にも人がぎっしりで、主催者の発表では参加者は五五〇〇人余りとのことでした。

集会は呼びかけ人の一人法政大学教授山口二郎さんの開会挨拶で始まり「集団的自衛権行使容認の閣議決定を許したが闘いはこれから。ヤマは来年の通常国会での関連法案の審議にある。この秋の福島・沖縄の知事選は国民の安倍政治への怒りを結集する糸口だ。」

続いて、発言に移り、フォークシンガーの小屋等さんが反戦詩人黒田三郎作詞の「道」を熱唱。作家・社会運動家の雨宮処凛さんは「奨学金返済の滞納者を防衛官等で働かせようとの動きがある。アメリカの貧困層を狙った究極の貧困ビジネスたる経済的徴兵と同じことにならぬ。」と告発。さらに、作家・作詞家なかにし礼さんが七月一日の閣議決定後直ちに作った詩「平和



の申し子たちへ！泣きながら抵抗を始めよう」を、司会・講師の神田香織さんが朗読し、参加者の胸を打ちました。作家の落合恵子さんは「安倍政権は国民の命と暮らしを守りたくない。危険な動きに抗し『賢い不服従』を貫こう！」と意気軒高に参加者に呼びかけます。

各政党の国会議員も駆けつけ、民主党の荒井聡・衆院議員(役員室長)、共産党の志位和夫委員長、社会民主党の吉田忠智党首、生活の党小沢一郎代表メッセー(ジ)が、国会内でも関連法案に反対して闘う決意を表明しました。

連帯の挨拶として、日本弁護士連合会・山岸良太さんと立憲デモクラシーの会・上智大学教授・中野晃一さんが壇上に立ち、その後、沖縄、北海道、東京・調布、パレスチナ・ガザ等の各地からの報告がありました。最後に、解釈で憲法九条を壊すな！実行委員会・高田健さんが閉会の挨拶を行い、五五〇〇人の参加者全員が「戦争をさせない」「九条壊すな」と書かれたメッセージボードを掲げました。集会後は銀座周辺をドラム隊と共に「憲法守ろう！」「戦争する国絶対反対！」などとシュプレヒコールをしながらデモ行進しました。(松下記)

東京都の国家戦略特区

学校はいま—その⑥

日経新聞(2014/4/25)によると、東京の国家戦略特区の指定について、竹中平蔵などの国家戦略特区諮問会議の有識者委員が、東京都が特区指定を千代田区や中央区など9区に限定したことに苦言を呈する異例のコメントを発表し、「都全域の指定を目指すべきだ」と、政府に調整を促した。特区は、2020年のオリンピックにむけ大胆な規制緩和をして経済成長を促す狙いをもっているが、教育の民営化や残業代なしの労働規制緩和も含まれている。

舛添都知事は、有識者委員の指摘に「(区域を) やたらと広げればいいものではない。具体的にできることをやっていくべきだ。特区は打ち出の小づちではない」と反発。「机上の空論をやっている人が政策決定をしていることが理解できない」と不快感を示したが、成長戦略の起爆剤と考える有識者と、規制緩和を慎重にとらえる都との溝が浮き彫りになった。

教職員の人事考課、学区自由化、学校への私塾導入など東京から始まって全国に波及してしまっただが、これもそうならないとも限らない。子どもの貧困が問題になっている折、公教育を解体し、教育格差を拡大することで経済成長を狙うことは、教育を喰い物にすることに他ならない。

英語で暮らせる東京、多国籍企業が最もビジネスしやすい東京など都民は望んでいない。(東京教組のブログより)

事務局からのお知らせ

- ①ご協力ありがとうございました —8月に会員の皆様に協力をお願いしました「戦争をさせない全国署名」は、9月25日までに178筆のご協力を頂き、日退教を通じ「戦争をさせない1000人委員会」に提出しました。
- ②おねがい —都退教協会費(2014年度分)が9月末現在で未納の方に、「納入のお願い」と「払込取扱票」を同封しました。ご協力のほどよろしくお願い致します。

東京都退職教職員囲碁大会報告

9月17日(水)午前10時から、「東京都教職員互助会・ナーベルお茶の水」で開催されました。

今年は参加者が少なく、Aクラス0名、Bクラス5名、Cクラス3名で、私は役員のみで、大会参加はしないつもりでしたが、Cクラスの人数が少ないため人数合わせのため、Cクラスに参加することにしました。

Bクラスは、トーナメント戦にすることにしましたが、試合数の関係で、途中からリーグ戦に変えることにしました。今年から全国囲碁大会を主催する「全国退職教職員生きがい支援協会」の対局ルールが変更になり、A・Bクラスでは、持ち時間40分で、対局時計を使用することになり、Cクラスでは、下位者のハンディーが、やや不利になりました。対局時計を使うことにより、対戦時間が短縮され、参加人数が少ないこともあって午後2時には全試合終了することができました。

都退教協からは、Bクラスで谷透氏、安部東明氏、Cクラスに小沢公夫氏、遠藤宏一の各クラス2名ずつの4名が参加しました。Bクラスで、安部東明氏が4戦全勝して1位になり、Cクラスで、都高退教の2名が1位、2位になりましたが、2位になった方は日程の関係で、辞退したため、3位の遠藤がくり上げで、東京都代表として、安部東明氏と共に、10月10日(金)に実施される関東ブロック大会に参加することになりました。

昨年の全国大会Aクラスで準優勝された石垣哲弥氏が欠席されたのは残念でしたが、対戦相手がいなかったことを考えれば、止むを得なかったと思えました。もっと多くの会員の皆様に参加していただきたいと思えました。(遠藤 記)